

## 平成26年度独立行政法人国立美術館年度計画

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置

#### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

##### (1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 国立美術館は、利用者のニーズ、研究成果を踏まえ、各館の特色を活かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、作家や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるとともに、各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

##### (東京国立近代美術館)

###### <本館>

所蔵作品展では、平成24年度のリニューアルの成果を活かし、引き続き特集展示や多言語による掲出解説文の充実に努める。また、ギャラリー4において、「コレクションによる小企画」展を1回実施する。

企画展では、京都国立近代美術館との交換展の開催後、世界有数の現代美術コレクションである台湾のヤゲオ財団所蔵作品により東西の現代美術を俯瞰する企画、最新の研究成果を十全に活かした菱田春草展、近年世界的に注目が集まる高松次郎の個展を開催する。また、ギャラリー4では戦後の重要な写真家のひとりである奈良原一高の初期の代表作〈王国〉を紹介する。

###### <工芸館>

所蔵作品展では、春季のテーマとして来館者にとっても親しみやすい「花」をテーマとした展覧会を実施し、コレクションの幅広い活用を目指す。また、恒例となっている夏季のこども企画である「こども+おとな工芸館—もようわくわく」については、来場者からの問い合わせが多かったことから、児童生徒に加えて一般にも

セルフガイドを配布して公衆の作品理解を深めるとともに、子ども連れの多い夏季ならではの需要に応じて来場機会の向上を目指す。冬季には、大正から昭和初期頃の工芸の近代化や戦後の展開で重要な作品など、近年の収集によって充実したコレクションから名品を精選して近代日本工芸の魅力ある発展をたどる「近代工芸案内（仮称）」展を開催し、新たな固定層の開拓とともに、国外からの観覧者の獲得にも努める。

企画展では、多くの愛好家や陶芸家を魅了してやまない青磁に焦点を絞り、その歴史と現代の活動を紹介する「青磁のいま～受け継がれた技と美 南宋から現代まで～」を開催する。また、現在活躍するベテラン作家を取り上げて紹介する「小企画展」枠にて、ジュエリーの制作品において新境地を切り開いてきた中村ミナトを取り上げる。

加えて、本館ギャラリー4 では、1970年の大阪万博をめぐるデザイナーの仕事に焦点を当て、「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」を開催する。

<フィルムセンター>

上映会では、保存・復元の成果を最大に活用して「映画監督 増村保造」、「映画監督 千葉泰樹」等、日本映画を代表する映画人の業績を顕彰する企画や、1980年代以降の新しい日本映画に焦点をあわせた「自選シリーズ 現代日本の映画監督 3（仮称）」、映画保存機関ならではの近年の収集・復元成果を紹介する「発掘された映画たち 2014」などを開催する。また、恒例となった「PFF」や「EU フィルムデーズ」に加え、ニューヨーク近代美術館（MoMA）のコレクションを紹介する「ザ・MoMA フィルム・ベスト ニューヨーク近代美術館映画コレクション（仮称）」、フィルムアルヒーフ・オーストリアが所蔵する無声映画をピアノ伴奏や弁士の語り付きで上映する「シネマの冒険 闇と音楽 2014 フィルムアルヒーフ・オーストリア所蔵無声映画選集（仮称）」など、共催によって可能となるプログラムの実施にも積極的に取り組み、多彩な鑑賞機会の提供を図る。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、映画作品に欠かせない題名デザインをめぐる展覧会、シネマテーク・フランセーズとの共催によるフランスの名監督ジャック・ドゥミを取り上げた展覧会を開催する。また、京都国立近代美術館との共催でイラストレーター和田誠氏所蔵品を中心とするミュージカル映画のポスター展を実施する。常設展については、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。

（京都国立近代美術館）

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間5回の展示替えでコレクションを紹介する。また、キュレトリアル・スタディーズとして研究員の発表の場を設ける。

企画展では、5年に一度京都服飾文化研究財団と共同で開催しているファッションをテーマとした展覧会「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展を開催し、日本ファッションの独自性をさまざまな表現形式で通観する。現代京都画壇の重鎮であり女性画家として初めて文化勲章を受章した上村松園の子息であった上村松篁の回顧展を開催する。「上村松篁展」では、初期から晩年までの代表作を展示し、伝統的な円山・四条派の写生を活かしながらも近代的な構成を持つ新しい花鳥画としてよみがえらせた上村松篁の足跡を回顧する。「うるしの近代（仮称）」展では、近代京都の漆芸界の状況を調査研究し、とくに漆芸作品と図案の関係を検証する。「ホイッスラー展」では、初期から晩年までの作品を、アメリカ、イギリス、フランスなどから集め、世界的に知られるジャポニスムの巨匠を、日本に初めて本格的に紹介する機会とする。

#### (国立西洋美術館)

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示とあわせ、版画素描展示室において小企画展を開催する。

企画展では、「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場」展において、17世紀初頭に活動したロレーヌ（現在フランス）出身の版画家ジャック・カロの想像力豊かな芸術を同館所蔵の版画作品により概観する。「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで 一時を超える輝き」展では、平成24年度に収集家の橋本貫志氏より一括寄贈を受けた指輪コレクションの主要作品300点強を展示し、古代から現代に至る指輪の歴史を様々な視点から紹介する。「日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展」では、19世紀末から20世紀初頭にかけて活動したスイス出身の画家ホドラーの芸術を、スイス国内の美術館及び個人コレクションから集められた作品群により回顧する。「チェント市震災復興支援 グエルチーノ展（仮称）」では、17世紀イタリアのボローニャ派を代表する画家グエルチーノの芸術を、イタリア国内の美術館から集められた作品群により日本で初めて包括的に紹介する。

#### (国立国際美術館)

所蔵作品展では、企画展と連動したテーマを設定して特色ある展示を行う。「ジャン・フォートリエ展（仮称）」にあわせ、「アンフォルメル」の動向を紹介する。また、近年新たに収集したコレクションを活用した展示を行う。

企画展では、前年度に引き続き、「アンドレアス・グルスキー展」を開催するほか、日本の現代美術の想像力とその源泉を探る「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」、戦後フランスを代表する画家「ジャン・フォートリエ展（仮称）」を開催する。さらに、国際的に活躍する映像作家フィオナ・タンの個展を開催

し、幅広い客層の関心に応じる。

#### (国立新美術館)

平成 26 年度の企画展においては、主に企画内容や運営及び広報面で新しい試みを行う。

自主企画展では、今までにない新しい展覧会として、国立民族学博物館及び日本文化人類学会と共同して企画する「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」を開催する。イメージの創出と受容という太古から続く人間の営為を、美術史学と文化人類学という二つの知的体系を駆使して検証する内容は、少なくともわが国では初の試みである。一方、日本の抽象絵画を代表する中村一美の個展では、確かな力量を備えた現代作家の全貌を、初期から最新作までを一堂に展覧して紹介する。また、「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」では、20 世紀前半のヨーロッパにおいて一世を風靡したロシア・バレエ団（バレエ・リュス）に焦点をあて、舞踏、美術、デザインという各領域を横断して生み出されたすぐれた衣装を紹介する。

共催展では、オルセー美術館と共同で企画した「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」において、印象派の誕生を同時代の動向や社会的背景も踏まえて多角的に検証する。「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」では、19 世紀末から 20 世紀前半にかけてのヨーロッパの前衛的な美術動向を検証するとともに、知られざるスイスの美術家によるすぐれた作品を紹介する。また、「ルーヴル美術館展 風俗画の展開（仮称）」では、16 世紀から 19 世紀にかけてのヨーロッパ絵画を中心に風俗画の成立と展開を検証し、「ルネ・マグリット展（仮称）」では、シュルレアリスムを代表する画家であるマグリットの全貌を世界各地から集めた作品によって紹介する。

①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、引き続き、①交換展・共同企画展の充実と、②所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、③平成 22 年度に開催した 5 館共同企画「陰影礼讃—国立美術館コレクションによる」の成果を踏まえ、平成 27 年度に開催予定の第 2 回目の共同企画展の準備を進める。また、更なる企画機能強化のため、各館研究員の協働や人材の活用等について検討する。

② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

#### ア 国立美術館巡回展

「国立国際美術館コレクション 美術の冒険（仮称）」（担当館：国立国際美術館）

（ア）期間：平成 26 年 5 月 17 日（土）～6 月 22 日（日）（34 日間）

会場：新潟県立万代島美術館

（イ）期間：平成 26 年 8 月 9 日（水）～9 月 28 日（日）（44 日間）

会場：茨城県近代美術館

#### イ 各館の巡回展

「東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展（仮称）」

（ア）期間：平成 26 年 4 月 26 日（土）～6 月 29 日（日）（63 日間）

会場：横須賀美術館（神奈川県）

（イ）期間：平成 26 年 7 月 5 日（土）～9 月 21 日（日）（68 日間）

会場：安曇野高橋節郎記念美術館（長野県）

#### ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：100 作品 25 プログラム（1 プログラム 4 作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：平成 26 年 7 月 7 日（月）～平成 27 年 3 月 8 日（日）

会場：全国 190 会場（予定）

#### エ 巡回上映

（ア）「日本が声を上げる！陽が昇る地から来たトーキー映画」パート 3

期間：平成 26 年 6 月 28 日（土）～7 月 5 日（土）

会場：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ

（イタリア・ボローニャ）

共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ

（イ）蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

期間：平成 26 年 4 月～11 月

会場：高松、神戸、金沢など全国 8 会場（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター、各実施会場

- ③ 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

- ① 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。
- ア 平成 26 年度に公募展を開催する美術団体等に会場を提供する。
- イ 平成 28 年度に施設を使用する美術団体等を決定する。
- ウ 平成 29 年度に施設を使用する美術団体等の募集について方針を決定し、募集を開始する。
- エ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実に努めるとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。
- ② 国際的に注目されるメディアアート、アニメ、建築など、様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。
- ア 東京国立近代美術館では「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」において、主に 1990 年代以降の、映画をめぐる美術の多様な実践を紹介し、同時期にギャラリー4で「地震のあとで：東北を思うⅢ」と題して、震災後を考える映像作品を展示する。また「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展ヤゲオ財団コレクションより」では、ほとんど国内では展示されたことのない現代海外作家の大型の彫刻作品やインスタレーション作品を展示するとともに、タブレットの活用により観客参加型の新しい試みを行う。所蔵作品展「MOMAT コレクション」においては、1970 年代以降の美術動向を映像作品によって特集等で積極的に示す。
- イ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、近年の復元作品や戦後の代表作を含めた所蔵日本アニメーション映画を、上映会の趣旨や規模にあわせて選択・編成し、共同主催や貸与を通じて、国内外へ紹介する。
- ウ 京都国立近代美術館では、「Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続」展を開催し、日本ファッションを、映像を用いながら紹介することで、不連続の連続という本展のテーマである、ファッションの変貌を時代とともに見せることができる。また、映像というメディアを用い、国際的な脈絡のなかで日本ファッションを問う。
- エ 国立西洋美術館では、国内唯一のル・コルビュジェ設計の同館本館建物について、引き続き、世界遺産登録に向けて地元自治体と連携し、パンフレットの配布や建築見学会、講座等の実施を通じて、近代建築に多大な影響を与えたル・コル

ビュジェと本館を紹介する。

オ 国立国際美術館では、現代映像の新たな世界を開拓する「フィオナ・タン展（仮称）」において、最新技術を駆使した映像表現による展示を実施する。

カ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

(ア) 「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」は、国立民族学博物館との緊密な連携のもと、イメージの生成と受容を世界各地の造形物に検証するという、かつてない新しい試みである。

(イ) 「中村一美展」において、現代美術の確かな足跡を確認するため、日本の抽象絵画を代表する作家である中村一美の画業を振り返るとともに、その新たな展開を紹介する。

(ウ) 最先端のメディアアートを紹介する「文化庁メディア芸術祭」を開催する。

(エ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として

「TOKYOANIMA!2014」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2014」に特別協力する。また、「INTO ANIMATION」の開催準備に協力する。

(オ) 館内映像設備を活用し、アニメーション作品をはじめとするメディアアートを上映する。

(カ) 金曜日の夜間開館の時間帯を利用し、講堂にてアニメーション作品の上映企画「AT@NACT」を複数回実施する。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

- ① 国立美術館は、所蔵作品、展覧会活動、その他の活動状況についてホームページ等を活用し積極的に広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう努める。

所蔵作品情報については、前年度に実施した漆工及び染織家の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、本年度はガラス、木工、竹工、人形、金工ほかの工芸諸作品の著作権者の調査を実施する。

これらにあわせて、所蔵作品総合目録検索システム、東京国立近代美術館・国立新美術館図書検索システム、国立新美術館アートコモンズ及び国立西洋美術館作品検索等の連携情報システム（国立美術館版「想－IMAGINE」）を継続して公開する。

また、国立美術館の情報資源と国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び国立情報学研究所による Webcat Plus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、国立情報学研究所の「想－IMAGINE」において連携するための調査研究

を継続して実施する。

さらに、海外主要美術図書館横断検索システム (artlibraries.net)、東京国立近代美術館及び国立西洋美術館の図書館 OPAC との連携を引き続き維持する。

国立新美術館では、「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、引き続き国内美術展カタログの海外への寄贈事業 (Japan Art Catalog プロジェクト) の充実を図る。

- ② 法人本部のホームページについて内容の充実を図り、国立美術館の活動について周知広報を強化する。

また、各館の日本語版・英語版ホームページの内容の充実に努め、展覧会情報や調査研究成果の公表等、積極的な情報発信に努める。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要 19 号 (平成 26 年度刊行予定) の全文を、平成 27 年 3 月を目途にホームページで公開する。

イ 企画展、所蔵作品展に関する英文ホームページについて、日本語ホームページと同じく CMS 機能を活用し、拡充・更新に努める。

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会情報、講演会、教育普及等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、展覧会情報を他のホームページにリンクを貼るなどして広報に努める。

イ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

ウ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、引き続きホームページ上で公開する。

(国立西洋美術館)

ア 所蔵作品に関する調査研究情報の継続的な収集・整理に努め、ホームページ上の作品データベースを通じて和英 2 ヶ国語で広く国内外に発信する。

イ 展覧会活動その他の活動状況を和英 2 ヶ国語のホームページや SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) を通じて積極的に発信する。

ウ 「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」の全文掲載を継続して行うとともに、館の研究成果の公開のため機関リポジトリを視野に入れて情報発信基盤の構築を図る。

エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品情報管理システムの



バックアップ・コピーの遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

- ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。
- イ 情報コーナーのパソコンによる所蔵作品閲覧の充実に努める。
- ウ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

(国立新美術館)

- ア 適時、メールマガジンを配信するとともに、ホームページ上などで登録者の募集を引き続き行う。インターネット上のソーシャルネットワークサービス等の活用し、館の活動を積極的に発信し、ホームページへの利用者の誘導を行う。携帯版ホームページについては、スマートフォンへの対応を検討し、利用者の利便性の向上を目指す。
- イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を引き続き検討し、情報資源の積極的な活用を図る。
- ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を平成 25 年度の検証実験を踏まえ、引き続き実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ③ 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

また、全国美術館会議情報・資料研究部会による企画セミナー「美術情報・資料の活用－展覧会カタログから Web まで」(東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館から講師として参加)については、平成 21 年から平成 23 年までの 3 年間の実績を踏まえ、美術情報・資料に携わる全国の美術館学芸員の要望に更に沿い、具体的な課題を解決できるよう企画内容を再検討する。あわせて前年度実施の「全国美術館所蔵作品目録の目録」調査を集計し、当該目録の公開を全国美術館会議のサイトにおいて行うことを検討する。

- ア 東京国立近代美術館では、近・現代美術関連資料を本館アトライブラリー、近・現代工芸関連資料を工芸館図書閲覧室、映画関連の図書資料をフィルムセンター図書室において収集し、公開する活動を継続的に進める。

『東京国立近代美術館 60 年史』刊行を踏まえ、館史資料の収集を継続しながら

ミュージアム・アーカイブの構築に関わる基礎的な調査研究を行う。あわせて「本館・工芸館企画展出品作家索引」を維持し、データベース化してホームページに公開しその活用を促す。

イ 国立西洋美術館では、西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の推進に役立てる。研究資料センターにおいて外部利用者に公開する活動を継続的に行うとともに、センターの在り方や利用者サービスの質の向上について検討する。

また、松方コレクション等の研究資源の公開に継続して取り組む。

ウ 国立国際美術館では、情報コーナーにおける国内外の美術図書の充実に取り組むとともに、パソコンによる所蔵作品閲覧の充実を図る。

エ 国立新美術館では、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努めるとともに、日本の現代美術に関する資料アーカイブの構築を引き続き進める。また、平成 25 年 8 月に別館 1 階に開室した「アートライブラリー別館閲覧室」の一層の拡充を行い、利用者サービスの向上に取り組む。

④ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を強化する。そのためのバックアップ用 VPN 回線を維持する。

また、いわゆる情報セキュリティポリシーに当たる「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を引き続き進める。

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、所蔵のフィルムや映画資料のデジタル化を進めるとともに、電子的な公開も行っていく。

#### (4) 国民の美的感性の育成

① 引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や学校で活用できる教材「アートカード」の貸出しや普及に努め美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

② 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び 18 歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の利用者増加を図るため、学生向けウェブサイトの普及広報等に努めるなど、加入校増加を目指す。

(東京国立近代美術館)

#### <本館>

所蔵作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生への鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク（約2回）、キュレーター・トーク（約15回）、解説ボランティアによる所蔵品ガイド（開館時毎日、約280回）やハイライトツアー（11回）の実施

ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き内鑑賞会（約2回）、小・中学生のためのセルフガイドの会場配布（通年）

エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、教員研修の実施

オ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会）との連携による研修への協力

#### <工芸館>

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の他、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やシンポジウム、アーティスト・トーク、ギャラリートークの実施

イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」（約90回）の実施

ウ 企画展及び所蔵作品展に関する教員のためのレクチャー付き内見会（約2回）、小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、指導案の配布

エ 各種教育機関からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施

オ 夏季の所蔵作品展に関する児童生徒及び一般を対象としたセルフガイドの作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」の実施、並びに子ども連れの来場者を対象とした「親子でタッチ&トーク」の実施

カ 作家との協力により小学校高学年から中学生を対象としたワークショップの実施

#### <フィルムセンター>

ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施

イ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供す

- る「こども映画館」の実施（夏休み期間、4日間程度）
- ウ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会や相模原市内の小・中学生を対象とした上映会の実施
- エ フィルムセンターが新たに復元した映画の上映と講演会の実施

（京都国立近代美術館）

前年度に引き続き、幅広い層の美術鑑賞教育への関心を高めることを重点目標に置き、外部からの自発的要望を積極的に支援し、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上及び指導者の数的拡大を目指す。

- ア 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会等の受入れの促進
- イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- オ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施
- カ 東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同主催による映画上映 NFC 所蔵作品選集 **MoMAK Films** を定期的に（年4回程度）実施
- キ 前年度に引き続いて、京都市教育委員会等との共催による「平成26年度図画工作指導講座『京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて』」を開催

（国立西洋美術館）

児童・生徒を対象としたプログラムをはじめ、多くの人々に美術と美術館に親んでもらうためのプログラム、コレクションを活用したテーマ性のある企画、対象を限定したプログラム等、それぞれの効果を考慮した幅広いレベルと内容のプログラムを提供する。

- ア 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施（予約制）
- イ 毎週日曜日及び第1、第3土曜日にボランティアによる「美術トーク」、第2、第4日曜日には「建築ツアー」を実施
- ウ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」（24回程度）、「びじゅつーる」（2回程度）の実施
- エ ファン・デーの実施
- オ ファン・ウィズ・コレクション（「橋本コレクション 指輪」展に関連して）の実施
- カ クリスマス・プログラム（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施

- キ 企画展に関連した講演会（10 回程度）とスライドトーク（10 回程度）の実施
- ク 企画展に関連したレクチャー・コンサートの実施（1 回）
- ケ 障害者を対象とする特別プログラムの実施（2 回）

（国立国際美術館）

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じられるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク等を開催する。また、低年齢層も同様に美術鑑賞の機会を享受できるよう、子ども向けの各種プログラムを実施する。その他、美術館がより開かれた場所となるよう、各種イベントを開催する。

- ア 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」（8 日間 16 回程度）の実施
- イ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」（4 日間 8 回程度）の実施
- ウ 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク（5 回程度）、ギャラリートーク（7 回程度）、コンサート等、イベントの実施
- エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施
- オ ワークショップ（2 日間程度）の実施

（国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施（10 回程度）
- イ 子どもから大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施（6 回程度）
- ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施
- エ 鑑賞ガイドの作成及び配布（2 回）
- オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施
- カ 美術や美術館をテーマとした館長とゲストによるトークイベントの実施
- キ ロビーコンサートの実施（3 回程度）

③ ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

（東京国立近代美術館）

#### <本館>

- ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）約 40 名により、所蔵作品展の所蔵作品ガイド（開館時毎日、280 回程度）、「ハイライト・ツアー」（11 回）及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」・「トークラリー」を実施する。
- イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生グループの受入れ等、鑑賞教育の充実を図る。
- ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修（年 2 回程度）を開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る。

#### <工芸館>

- ア 工芸館ガイドスタッフ（ボランティア）約 35 名により、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」（会期中の水・土曜日、90 回程度）及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。
- イ 工芸館ガイドスタッフにより、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。
- ウ 研究員等によるフォローアップ研修や作家によるレクチャーを開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る。

#### (京都国立近代美術館)

- ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。
- イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と連携して会員証提示による優待割引を引き続き実施する。

#### (国立西洋美術館)

- ア ボランティアスタッフ約 45 名による、ファミリープログラム、小・中・高等学校生の団体を対象とした常設展（所蔵作品展）でのスクール・ギャラリートーク、週末の一般向け「美術トーク」（約 60 回）及び「建築ツアー」（約 24 回）を実施する。ファミリープログラムの「どようびじゅつ」（24 回程度）については、希望者を募り企画から参加してもらうことでボランティアの育成にもつながるよう検討する。その他に、クリスマス・プログラム、ファン・ウィズ・コレクション、ファン・デー等のプログラム補助を行う。
- イ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する（年 2 回程度）。

ウ 都立上野高校の「奉仕」課外授業に協力し、高校生ボランティアを育成する。

(国立国際美術館)

ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理や、展覧会、講演会及びワークショップ等の補助作業に参加させ、美術館活動の基本を学べるようにする。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

④ 東京国立近代美術館フィルムセンターは、京都国立近代美術館及び国立国際美術館との共同主催により、所蔵フィルム・映画関連資料を用いた上映会又は展覧会を開催し、鑑賞機会の拡大と映画文化の普及を図る。

ア 「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」(年 4 回程度)

会場・共催：京都国立近代美術館

イ 「第 9 回中之島映像劇場—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による」

期間：平成 27 年 3 月

会場・共催：国立国際美術館

ウ 「チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより」

期間：平成 26 年 3 月 21 日～5 月 11 日

会場・共催：京都国立近代美術館

(5) 国立美術館における展示、教育普及その他の美術館活動の推進を図るため、調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動に反映させる。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、研究紀要を発行するなど、調査研究成果を発信するよう努める。

また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

各館においては、別表 2 の調査研究を実施する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

① 各館において、引き続き動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。

また、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 展覧会カレンダーを配布する。

イ 会場で配布する出品リスト等をより見やすくするために文字を大きくするなど必要な改善を行う。

ウ 所蔵作品展において、引き続きキャプション・解説パネル等文字要素の視認性を重視し、また多言語化を図る。

エ 所蔵作品展において、日本語版・英語版音声ガイドの貸出しを行う。

オ 企画展において可能な限り「フロアガイド」を配布する。

カ 企画展（年1回）、所蔵作品展（通年）において、小・中学生向けのセルフガイドを配布する。

キ 企画展において、可能な限り多言語対応（英語、中国語、韓国語）を図る。

<工芸館>

ア フロアガイド、作家名・作品名の読み方、素材・技法等を記載した出品リストを作成・配布するとともに、作家や作品の解説パネルやキャプションを作成・掲示するなど、鑑賞のための情報提供を促進する。

イ 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した鑑賞カードの充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。

ウ 所蔵作品展「こども+おとな工芸館—もようわくわく」において、児童生徒並びに一般の来館者を対象とするセルフガイドを配布する。

エ 重要文化財に指定されている建物についての情報を掲載した恒久的なリーフレットを作成し、来館者への関心を高める。

<フィルムセンター>

ア 展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。

「赤松陽構造と映画タイトルデザインの世界」(1回)

「ジャック・ドゥミ 映画/音楽の魅惑」(1回)

「ミュージカル映画の世界 ポスターでみる映画史 Part 2」(1回)

計3回配布



(京都国立近代美術館)

- ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会案内を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを引き続き実施する。

(国立西洋美術館)

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイドを配布する。
- イ 企画展において「作品リスト」（日本語、英語）及び小・中学生向け解説「ジュニアパスポート」を配布する。
- ウ 国内唯一のル・コルビュジェ設計の同館本館建物を観覧者に対して紹介する「建築探検マップ」（日本語、英語、仏語、中国語、韓国語）を配布する。
- エ これまで導入してきた「Touch the Museum」について、新機種スマートフォンで利用できるよう更新を検討する。

(国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会において、「フロアガイド」を配布する。
- ウ 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を配布する。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において「フロアガイド」を作成・配布する。
- エ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- オ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- カ 美術館の活動を紹介する「美術館ニュース」を作成・配布する。

② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

- ア 高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。
- イ 展覧会の混雑状況を考慮し、開館日・時間等について柔軟な対応を行う。
- ウ 学生等の美術鑑賞への興味と関心を高めるため、学生向けウェブサイトの普及

- 広報等、キャンパスメンバーズ制度の普及広報に努める。
- エ 「国際博物館の日」は、所蔵作品展の無料観覧日にするとともに、国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引観覧を実施する。
- オ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展の割引観覧を実施する。
- カ 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- キ 京都国立近代美術館、国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西 2014」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ク 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展観覧料の優待を実施する。
- ケ 京都国立近代美術館は、京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との相互割引観覧の実現に努める。

(東京国立近代美術館)

- ア 国民に広く美術作品等に親んでもらうため、所蔵作品展を廉価で観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。
- イ 東京シティアイと連携、協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。
- ウ クレジットカード及び電子マネー (suica 及び PASMO 等) による観覧券の窓口販売を行う。

<本館・工芸館>

- ア 年始は1月2日(金)から開館する。
- イ 休館日のうち、4月7日、5月5日、7月21日、9月15日、10月13日、11月3日、11月24日、平成27年1月12日、3月23日、3月30日を開館する。
- ウ 政府による美術品補償制度の適用を受けた「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」において、その効果の還元として、高校生及び大学生観覧料の低廉化を行う。
- エ 東京メトロ、JAF等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。

<フィルムセンター>

- ア 大ホールと小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を行い来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。

(京都国立近代美術館)

- ア 休館日のうち4月28日(月)、5月6日(火)、9月22日(月)、10月14日(火)、11月4日(火)を開館する。
- イ 3月21日から7月4日までの企画展開催中の金曜日の開館時間を3時間延長し、午後8時までとする。
- ウ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立西洋美術館)

- ア クレジットカード及び電子マネー(Suica及びPASMO等)による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 休館日のうち、8月11日(月)を開館する。
- ウ 年始は1月2日(金)から開館する。
- エ 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間を30分延長し、午後5時30分までとする。
- オ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。

(国立国際美術館)

- ア 金曜日の閉館時間を午後7時まで延長する。
- イ 休館日のうち、4月28日(月)、8月11日(月)、12月28日(日)、1月4日(日)を開館する。
- ウ 「大阪周遊パス2014」、大阪市交通局「エンジョイエコカード」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- エ 近隣のホテルと提携し、ホテル利用者のうち希望するものに入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- オ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

- ア 休館日のうち、4月30日(水)、8月12日(火)、10月14日(火)を開館する。
- イ 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。
- ウ 「六本木アートナイト」(平成26年4月19日～20日)の開催に伴い、4月19日の「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」展及び「中村一

- 美展」の開館時間を午後 10 時まで延長し、観覧料を無料にする。
- エ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
- オ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65 歳以上の割引後観覧料に大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
- カ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
- キ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
- ク クレジットカード及び電子マネー (Suica 及び PASMO 等) による観覧券の窓口販売を行う。
- ケ 小学生以下の子どもを対象とした託児サービスを通年で実施する。
- コ 「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」において、毎週金曜日の夜間開館に加え、会期中の土曜日である 8 月 16 日、23 日、30 日に夜間開館を実施し、開館時間を午後 8 時まで延長する。
- サ 「オルセー美術館展 印象派の誕生ー描くことの自由ー」において、毎週金曜日の夜間開館に加え、会場内の混雑緩和を図るため、会期中の土曜日である 8 月 16 日、23 日、30 日、9 月 6 日、13 日、20 日、27 日、10 月 4 日、11 日、18 日に夜間開館を実施し、開館時間を午後 8 時まで延長するとともに、会期末の 10 月 10 日～20 日の期間についても 10 月 14 日 (火) の休館日を臨時に開館し 11 日間連続した夜間開館を行い、開館時間を午後 8 時まで延長する。
- ③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
- ア 東京国立近代美術館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの提供など来館者サービスの向上を図る。
- イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行うとともに、ホームページに掲載されている情報の充実に努める。
- ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて提供される展覧会にちなんだメニューについて、「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」やホームページで広報する。
- エ 国立国際美術館では、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。
- オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行なうとともに、平成 26 年から 1 階にサテライトショップを展開し、新たな美術館の魅力を創出する。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

- (1)-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで引き続き公開する。

### (東京国立近代美術館)

#### <本館>

近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を積極的に行う。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集
- イ 日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集
- ウ 1900－1940年代の日本画作品の収集

#### <工芸館>

近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充
- イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集
- ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

#### <フィルムセンター>

映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムを収集するとともに、アニメーション映画作品、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な上映用素材、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルムの収集を行う。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 前年度に引き続き、初期トーキー、初期カラーの試みを反映した作品の収集と復元を行う。
- イ 前年度に引き続き、外国映画の名作・ヒット作、主要な映画監督の代表作、日本と係わりのある外国映画等の収集、及び所蔵外国映画フィルムの不燃化・複製化を行う。
- ウ 企業の管理下に置かれない自主製作映画、実験映画等のさらなる収集と復元を行う。

- エ 70mm フィルム等大型映画の適切な保存・復元の検討を行う。
- オ 前年度に引き続き、デジタル復元の成果として収集してきたデジタルデータの変換作業、及び上映用デジタル素材の作成を行うとともに、ボーンデジタル作品についてフィルムとデータのハイブリッド保存を試行的に実施することにより、長期保存への検討を行う。

(京都国立近代美術館)

- ア 前年度に引き続き、我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。
- イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

- ア 15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。
- イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。
- ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

- ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。
- イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

(1)-3 美術作品購入費（特殊業務経費）については、緊急を要する美術作品や通常の予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

- ア 各館における対策はもとより、収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化の抜本的な改

善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。

イ 重要文化財指定映画フィルム等の可燃性映画フィルムの安全な保存方法について、保存庫の運用方法を検討する。

(3) 所蔵作品の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。また「岸田劉生資料」を中心に、これまで比較的手薄だったスケッチブック、日記、手紙等作家資料の修復を進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工作品の現状保存修復を行う。作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを行う。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、前年度に引き続き、『日本南極探検』（1912年）等歴史資料として貴重な作品について、残存素材の調査及び保存・復元を進める。可燃性フィルム及びビネガーシンドローム等劣化の著しいフィルムの保存・復元について、症状に応じた柔軟な処置を施す。また、これまで本格的に着手をしてこなかった大型映画、実験映画、最初期の色再現であるステンシルカラーについて、デジタル技術の応用を含めた、適切な保存・復元の検討を行う。

エ 京都国立近代美術館では、前年度に引き続いて、企画競争によって修理を行う。

オ 国立西洋美術館では、緊急に処置を要する美術作品を中心に、保存修復処置を行う。

カ 国立国際美術館では、緊急に処置を要する美術作品について、保存修復処置を行う。

(4) 国内外の博物館・美術館、大学等と連携し、所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を実施し、その成果を業務に反映させる。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち、染織と漆工、人形等の作品の現状保存修復を行う。平成25年度に実施した作品収蔵庫及び展示会場の燻蒸・クリーニングの効果を高めるために、継続したクリーニングを重点的に行う。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、可燃性フィルムを含む映画フィルム及びデジタルメディアの登録・長期保管・保存、アナログ及びデジタル技術を

活用した復元に関する調査研究（FIAF 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等との共同研究）を行い、その成果を上映企画等に反映させる。映画製作者等諸団体との連携により、不明であった所蔵作品の権利帰属等メタデータを収集し、データベースの充実を図るとともに、その成果を上映企画や複製利用等に反映させる。

エ 京都国立近代美術館では、館外の修理業者の助言を仰ぎつつ、所蔵作品について適切な保存・管理を進める。

オ 国立西洋美術館では、前年度に引き続き、展示及び貸出しに向け、所蔵作品の状態及び展示用品・保管用品の構造や材質について調査研究を行う。貸出時の作品管理のための最適なデータロガーの調査・検討とクレートの仕様に関する研究を行う。

カ 国立国際美術館では、所蔵作品、特に、映像や写真作品に関する調査研究を継続するとともに、基礎資料の収集を行う。

- 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与  
(1) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって広く発信する。

国立美術館 5 館の事業成果を取りまとめた国立美術館年報について、本部において編集し発行する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 研究紀要、展覧会や企画上映に伴う図録、「現代の眼」等の刊行物を発行する。

イ 小・中学生向け解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

<工芸館>

ア 展覧会に伴う図録、所蔵作品による工芸ハンドブックを発行する。

イ 所蔵作品展「こども+おとな工芸館—もようわくわく」において、児童生徒並びに一般来館者を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

<フィルムセンター>

ア 「NFC ニュースレター」等を発行する。

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会に伴う図録、美術館ニュース「視る」を発行する。

イ 京都国立近代美術館研究誌「CROSS SECTIONS」第7号を発行する。

ウ コレクション・ギャラリーでは展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。



(国立西洋美術館)

- ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」を発行する。
- イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録及び「国立国際美術館ニュース」を発行する。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録を発行する。
- イ 鑑賞ガイドを発行する。
- ウ 新たに研究紀要を発行する。

(2)-1 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

- ア 東京国立近代美術館本館では、「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」、「菱田春草展」及び「高松次郎ミステリーズ」において、海外から研究者を招くなどして講演会を開催する。
- イ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念して講演会等を開催する。
- ウ 京都国立近代美術館では、国内外からの研究者を招へいし、各展覧会の開期中に講演会を開催する。「ホイッスラー展」において、海外の研究者を招へいして講演会を開催するとともに、ジャポニスムに関するシンポジウムを開催する。
- エ 国立西洋美術館では、「ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場」、「橋本コレクション 指輪 神々の時代から現代まで一時を超える輝き」、「日本スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展」及び「チェント市震災復興支援 グエルチーノ展(仮称)」にあわせ、講演会を各展覧会数回ずつ開催する。
- オ 国立国際美術館では、「ジャン・フォートリエ展(仮称)」の開催に際し、アンフォルメル絵画についてのシンポジウムを開催する。
- カ 国立新美術館では、企画展及び美術に関する講演会及びセミナー等を開催する。また、「オルセー美術館展 印象派の誕生ー描くことの自由ー」に関わるシンポジウムを開催する。

(2)-2 展覧会等の紹介や企画につき海外の美術館との連携・協力を図る。

国立新美術館では、平成27年度開催の「アーティスト・ファイル2015(仮称)」の開催に向けて、共同企画者の韓国国立現代美術館と連携して準備を進める。

(3) 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。

(4) 所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、「描かれたチャイナドレス—藤島武二から梅原龍三郎まで」(石橋財団ブリヂストン美術館)、「光風会 100 年記念展 光風会と日本の外光派 (仮称)」(東京ステーションギャラリー他)、「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」(福岡アジア美術館他)、「岡田三郎助—エレガンス・オブ・ニッポン (仮称)」(佐賀県立美術館) など、重要な調査研究的意義を持つ展覧会に積極的に貸与を行う。加えて、増大する貸与業務の安全化・効率化のため、事前の採寸・箱作成、輸送指示等を一層徹底する。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、所蔵作品巡回展や文化庁主催「日本のわざと美」展等への貸与を計画的に実施する。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、最新の保存・復元の成果を広く紹介するとともに、日本映画を中心にこれまで充実させてきたコレクションの紹介を目的に、地方及び海外の同種機関や映画祭等に対し、共催及び貸与を通して上映会・展覧会の開催に協力する。また、所蔵フィルム及び複製物、作品、映画関連資料に関する調査研究の成果を、諸機関との連携を視野に、テレビ番組、DVD の作成・販売等を通して、より広範な利用者や観客層へ普及できるよう検討を行う。

エ 京都国立近代美術館では、従来どおり、公私立美術館からの借用依頼に積極的に対応する。

オ 国立西洋美術館では、「ピエール・ボナール アルカディアを描く」展(フランス、オルセー美術館)、「ポール・デュラン＝リュエル、印象派の擁護者」展(イギリス、ナショナル・ギャラリー)、「生誕 200 周年 ミレー展」(宮城県美術館他)等に貸与を行う。

カ 国立国際美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。ヨコハマトリエンナーレ 2014「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」等に貸与を行う。

(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子どもたちに対する鑑

賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成26年8月4日～5日

会場：東京国立近代美術館、国立新美術館

募集人員：約100名

ウ 上記イの研修について教員免許更新講習として実施する。

(6) 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ 東京国立近代美術館工芸館及びフィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

エ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

(7) 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

(8)-1 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として次のとおり実施する。

ア 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。

イ 「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館利用校）とともに、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。

ウ 文化庁が実施する映画関連の事業に、施設の提供等で協力する。

- エ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力する。
- オ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行う。
- カ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席し、シンポジウム等で発表を行う。
- キ 全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。

(8)-2 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内における独立した一館となることを含む様々な独立の可能性を探るべく、その機能拡充について、検討を行う。

- 4 運営委員会及び外部評価委員会の指摘等を館長等会議等において検討し、法人運営・事業等に反映させる。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 一般管理費等の削減

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

#### (1) 情報通信技術を活用した業務の効率化

国立美術館 5 館の情報システムネットワークの一元化を基盤として、引き続き TV 会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPN バックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

所蔵作品情報の公開の円滑化を図るため各館のローカルシステムと独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムとの効率的オンライン化の検討を進める。

#### (2) 「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

#### (3) リサイクルを推進し、廃棄物の排出量の削減に努める。

### 2 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数の抑制を図り、平成 26 年度において対年齢・地域・学歴勘案の指数が 100 以下となるように引き続き取り組むとともに、対年齢勘案の指数についても 100 程度となるように努め、その結果について検証を行い、あわせて検証結果や取組状況を公表する。

また、平成 26 年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

### 3 契約の点検・見直し

(1) 国立美術館契約監視委員会を 1 回程度開催し、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

(2) ミュージアムショップについては、国立西洋美術館及び国立国際美術館は平成 23 年度に、京都国立近代美術館は平成 24 年度に企画競争により決定した業者による運営を継続して行う。

また、その他企画競争の導入等の指摘を受けた施設内店舗の賃貸については、快適な観覧環境の提供及び入館者サービスの充実に留意した上で、より一層の観覧環境の向上と効率化のため、企画競争等の導入を検討し、実施可能などころから順次、導入に向けた準備を行う。

### 4 保有資産の有効利用

(1) 施設の有効利用のため、引き続き外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図る。

(2) 引き続き理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(3) 外部評価委員会を 1 回以上開催し、年度ごとに業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、結果を「国立美術館外部評価報告書」として法人ホームページで公表する。

(4) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティへの意識向上に継続して努める。

また、いわゆる情報セキュリティポリシーに当たる「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

## III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 外部資金の活用、自己収入の増大に努める。

2 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

3 収支計画

別紙のとおり。

4 資金計画

別紙のとおり。

#### IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

平成25年度補正予算及び平成26年度予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

(平成25年度補正予算)

ア 国立西洋美術館本館熱源機器設備等改修工事等

イ 国立西洋美術館新館熱源機器設備改修その他工事

(平成26年度予算)

ア 東京国立近代美術館本館防災設備更新工事

イ 東京国立近代美術館フィルムセンター本館冷温水配管等改修工事

ウ 京都国立近代美術館電気設備等更新工事

エ 京都国立近代美術館エレベーター設備等工事

オ 国立西洋美術館企画展示館空調設備改修工事

(2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

2 人事に関する計画

(1) 方針

① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア 新規採用者研修

イ 接遇研修

ウ メンタルヘルスケアに関連する研修

② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、引き続き平成23年度に導入した任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度のより一層の活用を図る。

3 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

4 その他

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成25年12月24日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

## 2 予算(年度計画の予算)

## 平成26年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	7,460
展示事業等収入	1,106
施設整備費補助金	3,596
計	12,162
支 出	
運営事業費	8,566
管理部門経費	1,296
うち人件費	293
うち一般管理費	1,003
事業部門経費	7,270
うち人件費	790
うち展示事業費	5,360
うち調査研究事業費	181
うち教育普及事業費	939
施設整備費	3,596
計	12,162



### 3 収支計画

#### 平成26年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,070
經常経費	5,070
管理部門経費	1,269
うち人件費	293
うち一般管理費	976
事業部門経費	3,634
うち人件費	790
うち展示事業費	1,754
うち調査研究事業費	176
うち教育普及事業費	914
減価償却費	167
収益の部	5,070
運営費交付金収益	3,797
展示事業等の収入	1,106
資産見返運営費交付金戻入	150
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	14

#### 4 資金計画

#### 平成26年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	12,162
業務活動による支出	8,464
投資活動による支出	3,698
資金収入	12,162
業務活動による収入	8,566
運営費交付金による収入	7,460
展示事業等による収入	1,106
投資活動による収入	3,596
施設整備費補助金による収入	3,596

別表1 平成26年度 所蔵作品展・企画展 計画

目標入館者数 全館合計	2,488,050 人
所蔵作品展(展示)	629,000 人
企画展(企画上映)	1,859,050 人

(東京国立近代美術館)

<本館>

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「何かがおこってるⅡ:1923、 1945、そして」、「地震のあと で:東北を思うⅢ」他特集含む)	—	5回展示替え	267	150,000	本館所蔵 品ギャラ リー
企画展	映画をめぐる美術—マルセル・ブ ローターズから始める	京都国立近代美 術館	4/22(火) ~ 6/1(日)	36	10,000	本館企画 展ギャラ リー
	現代美術のハードコアはじつは世 界の宝である展 ヤゲオ財団コレ クションより	ヤゲオ財団	6/20(金) ~ 8/24(日)	57	37,000	〃
	菱田春草展	日本経済新聞 社、NHK、NHKブ ロポジション	9/23(火) ~ 11/3(月)	37	110,000	〃
	高松次郎ミステリーズ	—	12/2(火) ~ 3/1(日)	74	18,000	〃
	奈良原一高 王国	—	11/18(火) ~ 3/1(日)	86	20,000	本館ギャ ラリー4
企画展計				290	195,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					345,000	

<工芸館>

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	花 こども+おとな工芸館—もようわ くわく 近代工芸案内 近代工芸の名品 (仮称)	—	4 回展示替え	161	18,000	工芸館
企画展	青磁のいま~受け継がれた技と美 南宋から現代まで~	—	9/13(土) ~ 11/24(月)	63	12,000	〃
	中村ミナト展 (仮称)	—	2/24(火) ~ 4/19(日)	32	5,000	〃
	大阪万博1970—デザインプロジェ クト	—	3/20(金) ~ 5月下旬	11	5,000	本館ギャ ラリー4
企画展計				106	22,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					40,000	

<本館>・<工芸館> 合計 385,000 人

所蔵作品展 168,000 人

企画展 217,000 人

<フィルムセンター>

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	日本の初期カラー映画	—	4/8 (火) ~ 5/25 (日)	42	12,000	大ホール
	EUフィルムデーズ2014	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関	5/30 (金) ~ 6/22 (日)	21	9,500	大ホール (一部小ホール)
	映画監督 増村保造	—	6/24 (火) ~ 9/7 (日)	60	17,000	大ホール
	第36回PFF	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン	9/13 (土) ~ 9/25 (木)	11	4,000	大ホール (一部小ホール)
	発掘された映画たち2014	—	9/27 (土) ~ 10/12 (日)	14	2,500	大ホール
	ザ・MoMA フィルム・ベスト ニューヨーク近代美術館映画コレクション (仮称)	コミュニティ・シネマセンター (Fシネマ・プロジェクト)、東京国際映画祭、モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA)、日本国際映画著作権協会	10/24 (金) ~ 11/9 (日)	15	6,000	〃
	シネマの冒険 闇と音楽 2014 フィルムアルヒーフ・オーストリア所蔵無声映画選集 (仮称)	オーストリア大使館	11/11 (火) ~ 11/16 (日)	6	1,300	〃
	映画監督 千葉泰樹	—	11/18 (火) ~ 12/27 (土)	35	15,000	〃
	日本映画史横断⑤ 東映時代劇の世界	—	1/6 (火) ~ 2/15 (日)	36	9,500	〃
	福岡市総合図書館所蔵アジア映画選集 (仮称)	福岡市総合図書館	2/17 (火) ~ 3/15 (日)	24	5,500	〃
	自選シリーズ 現代日本の映画監督3 (仮称)	—	3/17 (火) ~ 3/29 (日)	12	3,000	〃
	京橋映画小劇場No. 28 アンコール特集 2013年度上映作品より	—	5/9 (金) ~ 5/25 (日)	9	1,800	小ホール
	京橋映画小劇場No. 29 映画の教室2014	—	8/22 (金) ~ 9/7 (日)	9	1,600	〃
上映会計				294	88,700	
展覧会	赤松陽構造と映画タイトルデザインの世界	—	4/15 (火) ~ 8/10 (日)	99	5,000	
	ジャック・ドゥミ 映画/音楽の魅惑	シネマテーク・フランセーズ	8/28 (木) ~ 12/14 (日)	81	4,000	
	ミュージカル映画の世界 ポスターでみる映画史Part 2	京都国立近代美術館	1/6 (火) ~ 3/29 (日)	72	4,500	
	展覧会計				252	13,500
上映会 ・ 展覧会 合計					102,200	

## (京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展 「近代の美術・工芸・写真」	—	5回展示替え	213	131,500
企画展	Future Beauty 日本ファッション：不連続の連続 ※1	京都服飾文化研究財団	3/21 (金) ～ 5/11 (日)	38	30,000
	チェコの映画ポスター テリー・ポスター・コレクションより ※2	東京国立近代美術館フィルムセンター	3/21 (金) ～ 5/11 (日)	38	(23,000)
	上村松篁展	日本経済新聞社	5/27 (火) ～ 7/6 (日)	36	30,000
	うるしの近代 (仮称)	—	7/19 (土) ～ 8/24 (日)	32	8,000
	ホイッスラー展	NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞	9/13 (土) ～ 11/16 (日)	59	120,000
	現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより ※3	東京国立近代美術館、ヤゲオ財団	3/31 (火) ～ 5/31 (日)	1	350
	企画展計			166	188,350
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					319,850

※1 通算の開催日数は47日間、目標入館者数は35,000人。

※2 通算の開催日数は47日間、目標入館者数は28,000人。ただしコレクション・ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

※3 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は20,000人。

## (国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	269	257,000
企画展	ジャック・カローリアリズムと奇想の劇場	読売新聞社	4/8 (火) ～ 6/15 (日)	60	33,000
	非日常からの呼び声 平野啓一郎 が選ぶ西洋美術の名品 ※1	読売新聞社	4/8 (火) ～ 6/15 (日)	60	—
	橋本コレクション 指輪 神々の 時代から現代まで 一時を超える	東京新聞	7/8 (火) ～ 9/15 (月)	62	102,000
	日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展	NHK、NHKプロ モーション	10/7 (火) ～ 1/12 (月)	81	180,000
	チェント市震災復興支援 グエル チーノ展 (仮称) ※2	TBSテレビ	3/3 (火) ～ 5/31 (日)	25	28,000
企画展計			228	343,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					600,000

※1 「ジャック・カロー」展に併設する企画展のため、日数の合計には計上しない。

※2 通算の開催日数は78日間、目標入館者数は88,000人。

## (国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション4 コレクション1 コレクション2 コレクション3	—	3回展示替え	275	59,000
企画展	アンドレアス・グルスキー展 ※	読売新聞社、読売テレビ	4/1 (火) ~ 5/11 (日)	38	12,000
	ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉	—	5/27 (火) ~ 9/15 (月)	98	26,000
	ジャン・フォートリエ展 (仮称)	毎日新聞、毎日放送	9/27 (土) ~ 12/7 (日)	62	23,000
	フィオナ・タン展 (仮称)	—	12/20 (土) ~ 3/22 (日)	75	12,000
	企画展計			273	73,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					132,000

※ 通算の開催日数は88日間、目標入館者数は27,000人。

## (国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる ※1	国立民族学博物館、日本文化人類学会	2/19 (水) ~ 6/9 (月)	61	20,000
	中村一美展 ※2	—	3/19 (水) ~ 5/19 (月)	43	10,000
	魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展	TBS	6/18 (水) ~ 9/1 (月)	67	67,000
	オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—	読売新聞社	7/9 (水) ~ 10/20 (月)	92	455,000
	チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで	朝日新聞社	9/25 (木) ~ 12/15 (月)	72	232,000
	DOMANI・明日展	文化庁	12月 ~ 1月	—	10,000
	平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭	文化庁	2月 ~ 2月	—	45,000
	ルーヴル美術館展 風俗画の展開 (仮称) ※3	日本テレビ放送網	2/21 (土) ~ 6/1 (月)	33	98,000
	ルネ・マグリット展 (仮称) ※4	読売新聞社	3/25 (水) ~ 6/29 (月)	6	12,000
	企画展計			374	949,000

※1 通算の開催日数は97日間、目標入館者数は32,000人。

※2 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は13,000人。

※3 通算の開催日数は87日間、目標入館者数は257,000人。

※4 通算の開催日数は84日間、目標入館者数は166,000人。

別表2 各館の平成26年度調査研究

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
映画をめぐる美術	京都国立近代美術館
ヤゲオ財団コレクション	ヤゲオ財団、名古屋市美術館、広島市現代美術館、京都国立近代美術館
菱田春草	東京芸術大学、永青文庫、熊本県立美術館、東京文化財研究所
高松次郎	国立国際美術館
奈良原一高	—
「MOMATコレクション 特集：何かがおこってるⅡ：1923、1945、そして」	—
「MOMATコレクション 特集：地震のあとで：東北を思うⅢ」	—
「コレクションによる小企画 美術と印刷物 1960-70年代を中心に」	—
「MOMATコレクション」における多様な情報提供	—

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想-IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	—
「1960～70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築」	科学研究費補助金、3年目
「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」	科学研究費補助金、3年目
「1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究」	科学研究費補助金、3年目
国立情報学研究所との共同による海外主要美術図書館横断検索システム(artlibraries.net)と国立美術館図書館OPACとの連携可能インターフェース	—

<工芸館>

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
近・現代の工芸(陶芸)	山口県立萩美術館・浦上記念館、兵庫陶芸美術館、静岡市立美術館
コレクションによる近代日本工芸案内	—
中村ミナト	—
大阪万博のデザイン	—

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会
児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	石川県立輪島漆芸技術研究所
一般鑑賞者を対象とする工芸技法の鑑賞教育の推進	日本工芸会

<フィルムセンター>

ア 収集・保存のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	—
文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき、新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	—
可燃性フィルムを含む映画フィルム及びデジタルメディアの登録・長期保管・保存・変換、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等
不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画製作会社等諸団体
映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」	協同組合日本映画・テレビ美術監督協会

イ 上映会、展覧会及び教育普及事業のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
日本の初期カラー映画	—
ヨーロッパ諸国の映画	—
増村保造監督	—
日本の自主映画	—
新たに復元された映画とその作者、技術フォーマットや時代背景	—
アメリカ映画	—
オーストリア無声映画	—
千葉泰樹監督	—
東映時代劇	—
アジア諸国の映画	—
現代日本映画の監督	—
日本映画におけるタイトルデザインの歴史と現在	—
映画監督ジャック・ドゥミ	シネマテーク・フランセーズ
ミュージカル映画のポスター	京都国立近代美術館
「無声映画の音—帝政期ロシアにおける初期映画興行研究」	科学研究費補助金、4年目

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
日本のファッション	京都服飾文化研究財団
チェコの映画ポスター	東京国立近代美術館フィルムセンター
上村松篁	松伯美術館、富山県水墨美術館
近代の漆芸作品	—



ジェームズ・マクニール・ホイッスラー	横浜美術館
ヤゲオ・コレクション	ヤゲオ財団、東京国立近代美術館、名古屋市美術館、広島市現代美術館
ヨシダミノル	—
日本近代洋画と浮世絵—鏡としてのジャポニスム	京都大学人文科学研究所

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
「ベルリン工芸博物館開館時の展示方法—考—源泉としてのジオラマとグロピウス—族」	科学研究費補助金、2年目
「近代美術工芸における『図案』と『図案家』をめぐる基礎的研究」	科学研究費補助金、2年目
オーラルヒストリーによる1970年前後の前衛美術とその隣接領域	—
1960～70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築	—
日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究	—

(国立西洋美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
ジャック・カロ	—
橋本コレクション	—
フェルディナント・ホドラー	ベルン美術館、スイス芸術学研究所、兵庫県立美術館
グエルチーノ	ポローニャ文化財・美術館特別監督局、チェント市美術館

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	—
中世末期から20世紀初頭の西洋美術	—
所蔵版画作品	—
美術館教育	—
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	—
「17世紀オランダ美術の東洋表象研究」	科学研究費補助金、3年目
「共和主義におけるチャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立」	科学研究費補助金、3年目
「ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代建築と古代彫刻のデータベース構築」	科学研究費補助金、3年目
「古代ローマ工芸美術の基礎的研究—テッラ・シギラタについて—」	科学研究費補助金、2年目
「前衛と古典主義：20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究」	科学研究費補助金、2年目
「エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討」	科学研究費補助金、3年目

(国立国際美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
所蔵作品	—
現代美術の動向	—
ジャン・フォートリエ	東京ステーションギャラリー、豊田市美術館
フィオナ・タン	東京都写真美術館
高松次郎	東京国立近代美術館
アルベルト・ジャコメッティ	東京国立近代美術館、愛知県美術館
プレイ	

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
美術館教育	—
アジアの現代美術並びに美術館運営	国際交流基金

(国立新美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
日本の現代美術の動向	—
海外の現代美術の動向	—
日本及び韓国の若手現代美術作家	韓国国立現代美術館
日本のメディア・アート	兵庫県立美術館
世界各地のさまざまな時代の造形物の機能と役割—イメージ人類学的観点から	国立民族学博物館
中村一美の芸術とその展開	—
バレエ・リュス	オーストラリア国立美術館
印象派の誕生	オルセー美術館
20世紀前半のヨーロッパにおける前衛美術	チューリヒ美術館、神戸市立博物館
16世紀から19世紀までのヨーロッパにおける風俗画	ルーヴル美術館、京都市美術館
ルネ・マグリット	ベルギー王立美術館、京都市美術館

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	—
日本の近・現代美術資料	—
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—
美術情報の収集・提供システム	—
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—